

Parakeet(パラキート)株式会社は、2022年4月に設立され、「2030年までに『世界で最も傑出した音声合成技術を持つ会社』という評価を確立する」ことを目指し、リアルタイム音声変換技術を用いたサービス「Paravo(パラボ)」などを展開しています。代表取締役CEOの中村泰貴氏(本学大学院博士課程3年)は、修士2年生のときに独立行政法人情報処理推進機構の未踏アドバンス事業に採択され、リアルタイム音声変換技術の開発に取り組みました。その後、本学の猿渡・齋藤研究室の研究チームとして、歌手の松任谷由実さん(ユミン)のデビュー当時の歌声を人工で再現するプロジェクトに参画することになり、Parakeet株式会社を設立しました。

Parakeet株式会社は、東大IPCの起業支援プログラムであ

る、理想的な形で投資家からの初回の資金調達(1stRound)が達成できるように、活動資金、専門家によるサポート、オフィスやラボ、クラウドサービスなどの各種リソースが提供される公募プログラム「1stRound」の第8回に採択され、Non-Equity資金やキャピタリストや専門家によるハンズオン支援を受けることができ、起業に役立てることができました。

次世代リアルタイムAIボイスチェンジャー「Paravo」

Parakeet株式会社が提供する「Paravo」は、マイクに入力した声をリアルタイムで他の声優やキャラクターの声にする「ファイル・リアルタイム音声変換技術」を用いた次世代リアルタイムAIボイスチェンジャーです。B to Cで提供し、主にエンターテインメント用途で、AI VTuberの声を作る他、配信者が自分の声では配信したくない場合や、心理的負担から他のキャラクターの声で配信したい場合などに使われています。

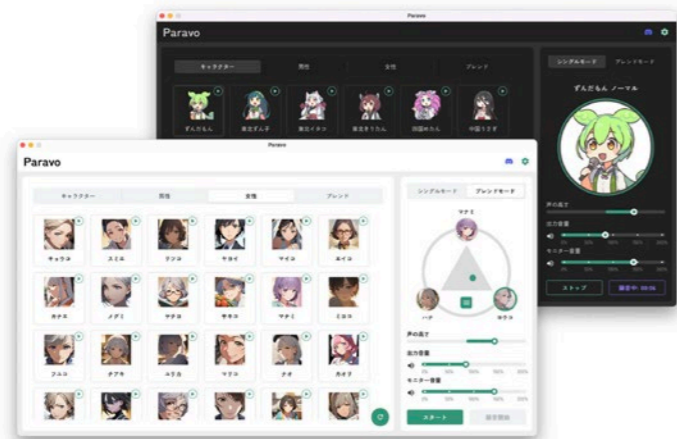
音声変換の速度は、オープンソースのコードを使うと0.1~1秒の遅延が生じ、発声後、それが自分に聞こえるタイミングが遅れるため話者はしゃべりづらく、音と口の動きがずれるので相手も聞きづらくなります。そこで、いちからコードを設計することで、安価なノートPCでも0.08秒の低遅延に抑えることができ、ずれの違和感をほぼなくすることができています。



(出典:Parakeet株式会社より提供)

リアルタイムボイチェン 声の冒険、始めよう。

インストール数累計 70,000突破
コミュニティ参加者 2,600名突破



(出典:Parakeet株式会社より提供)

「Paravo」で使用されているJVS corpus

「Paravo」には、「匿名話者」の音声の一部にJVS(Japanese versatile speech) corpusが使用されています。

JVS corpusは、本学の高道慎之介氏らが中心となって構築され、日本語の音声合成研究を加速するために開発された、無料の日本語多数話者音声コーパスです。100名のプロフェッショナル話者(声優・俳優など)の音声データを含んでおり、各話者について、Normal(通常)、Whisper(ささやき声)及びFalsetto(裏声)の3つのスタイル(およびその混合)の音声が含まれています。また、音声データだけでなく、転写(テキスト)、性別情報、F0(基本周波数)の範囲、話者類似度、継続長、音素アライメント(自動生成)などの有用なタグが含まれています。音声合成研究、特にボイスチェンジャーや多数話者モデリングなどの研究・開発利用を目的として設計されています。このJVS corpusは、2019年度東京大学 GAPファンドプログラム「音声合成技術の研究開発・商用利用を加速させる音声コーパスの設計・構築」に採択され、コーパス構築技術の創出とフリーアクセス可能なコーパス公開を行い、(1)基盤技術の社会実装の加速、(2)コーパス頒布による社内開発の加速、(3)企業と連携した新コーパスの創出を目指しました。

Parakeet株式会社は、「Paravo」で無料でも利用できる「男性、女性のプロ匿名声優」の音声データとして、このJVS corpusを権利元と商用ライセンス契約をした上で使用しています。これにより、「Paravo」のユーザーはJVS corpus由来の「匿名話者」の音声を利用して作成された音声データを、個人・法人を問わず、商用・非商用を問わず利用することができます(ただし、法人利用または個人の営利利用の場合はParakeetへ問い合わせが必要)。

JVS corpusは、その高品質さと多様な話者・スタイルが特徴であり、Parakeet株式会社が「Paravo」で提供するリアルタイムかつ高品質なボイスチェンジャー機能の基盤の一つとなっています。

全て声優許諾済み、安心して使える



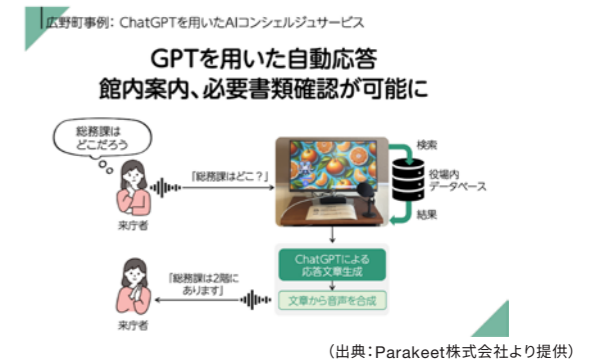
(出典:Parakeet株式会社より提供)

BtoB領域への展開

Parakeet株式会社は、「Paravo」のリアルタイム音声変換技術を応用し、BtoCだけでなくBtoB領域への展開も進めています。同社の所在地である福島県双葉郡広野町では、Parakeet株式会社のAI技術とChatGPTを組み合わせたAIコンシェルジュサービスの運用が2025年2月から開始されています。これは、市役所の入り口で来場者(視覚障害者・聴覚障害者含む)への館内案内や、一部の市政業務をAIが代替するものです。

また、BtoB領域では、オリジナルキャラクターに声を当て、ライブ配信を実施したり、コールセンターやインターホンにおいて話し手の性別を変えることで、特定の性別に係る迷惑行為やハラスメント行為を対策したり、テーマパークやイベントでの「話せる着ぐるみ」を実現したりといった様々な活用例が想定され、その可能性は大きく広がっています。

このような取り組みを通じて、Parakeet株式会社は「世界で最も傑出した音声合成技術を持つ会社」という評価の確立を目指し、エンターテインメントからビジネスまで、幅広い分野で音声技術の可能性を広げていく計画です。



(出典:Parakeet株式会社より提供)

東大知財が活用されたスタートアップの創出

この事例は、東大の研究生がスタートアップを起業するにあたり、東大IPCの起業支援プログラムである1stRound等による資金やハンズオン支援が起業に役立てられました。また、その事業のParavoで利用している東大知財のJVS corpusは東京大学GAPファンドプログラムで支援し、社会実装を加速させたものです。

産学協創推進本部は、様々な支援によってスタートアップの創出と東大知財の社会実装が加速するよう支援してまいります。